



自然遊学館 だより

2017 SUMMER

No.84



コウイカの卵

2017年5月27日、近木川河口の海辺でコウイカの卵がシラモという海藻に産み付けられていました。コウイカは針イカの名で売られていますが、春に外海から内海に産卵のため来遊し、砂をまぶした卵を産むことが知られています。

2017.8.14 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーリポート

ゾンビは実在する？！

～ 寄生（きせい）のはなし ～ …… 澤田智子 …… 1

*行事レポート

渚の生きもの …… 山田浩二 …… 3

二色の浜稚魚放流 …… 澤田智子 …… 5

*泉州生きもの情報

ウラナミアカシジミ …… 岩崎拓 …… 6

*館長コーナー

海の学びミュージアムサポートについて

…………… 高橋寛幸 …… 7

*いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの 11 …… 鈴子勝也 …… 10

*調査速報

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査 5

…………… 鈴子勝也 …… 11

*寄贈標本

…………… 12

*スタッフ日誌

…………… 15



ネイチャーリポート

ゾンビは実在する？！ ～寄生（きせい）のはなし～

ある日突然、飼育していた昆虫が動かなくなり、その周りに繭や小さな蛹がくっついていていませんか？

「ああ！やられた！」とくやしく思う瞬間ですよ。それは寄生バチや寄生バエに寄生されていたのです。



上の写真は、遊学館にて飼育していたマイマイガ（チョウ目ドクガ科）の幼虫からコマユバチ科の一種と思われる寄生バチが出てきて、繭を卷いた蛹になっています。このハチは、おそらくマイマイガが小さな幼虫の時に親ハチが卵を産み付けていたのでしょう。ガの幼虫が生きている時は外見からは寄生されていることが分かりませんでした。

（寄生者の種類によっては、体の外側に卵を産みつけている外部寄生のパターンもあります）

野外では、昆虫を観察していると寄生バチや寄生バエが卵を産み付けている瞬間を目にすることがあります。次の写真はア

ゲハチョウの幼虫に寄生バチの親が卵を産み付けているところです。



これらの寄生者ってのは「なんてひどい奴だ！」と思うかもしれませんが、自然界ではこれら寄生者が害虫の大発生を抑制するために大活躍しています。

自然界には、ハチなどの昆虫だけでなく菌類、ウイルス、類線形動物など多岐にわたる寄生者が存在します。それらは、都市部などの人工的な林よりも、より自然界に近い森林の方が種類が多く、1 個体のガの幼虫から3種類の寄生者が出てくることもあります（南、1999）。また、ブナ林でのブナアオシャチホコの大発生した翌年以降にはサナギタケという寄生菌の活躍によってこのガの個体数が抑制されたことが報告されています（鎌田、2006）。

つまり、自然界では単純な食う食われるの関係以外にも、寄生というレベルでも互いの密度バランスを保っているのです。

さらに「寄生」のおもしろいところは、寄生者が宿主（寄生された生きもの）を操る事例があることです。

1996 年、フランスの進化生物学者フレデリ・トマスは、コオロギが池に飛び込む姿を偶然目にしました。しかも、池の水面

でもがくコオロギのおなかから何かニョロニョロと出てきたではありませんか。それはハリガネムシという類線形動物だったのです。

コオロギやカマキリ等のおなかの中には、高い割合でハリガネムシという細長く本当に針金のように見える類線形動物が寄生していることはご存じの方も多いでしょう。ハリガネムシは水中で卵から孵化し、蚊の幼虫のおなかの中にかくれ、蚊が成虫になって昆虫に食べられるのを待ちます。例えば、願いかなって蚊がコオロギに食べられると、新たな宿主となったコオロギのおなかの中で成長を開始します。

おもしろいのはここから！ハリガネムシに寄生されたコオロギは、しばらくは元気に餌を食べて活発に動き回りますが、おなかの中のハリガネムシが十分育ったころ、夜中に水の中に飛び込み死んでしまうという不思議な行動をとるのです。トマスは、コオロギはハリガネムシによって、より光がまぶしく見えるよう視覚を変化させているのだという研究結果を導き出しました。元より昆虫は光に向かっていく習性があるのですが、夜中に月の光が反射する池など水面がよりまぶしく光っているように見える宿主コオロギは操られたゾンビのように水面に向かって飛び込んでしまいます。ハリガネムシは水を感じると、コオロギのおなかから外に出て、成体になり子孫を残します。可哀そうなコオロギは、そこで命が尽きてしまうのです。

もっと、可哀そうな宿主たちもいます。エメラルドゴキブリバチの親は、ワモンゴキブリの脳に神経毒を注入し、従順なゾン

ビ（生きているかのように動く死体または死にかけた状態）に変化させてしまいます。ハチはゾンビの上に乗る、触角を切り落としてそこから体液を飲みつつ、さらにゾンビが自らの力でハチの巣穴へ移動するよう操ります。その後、ゾンビは産み付けられたハチの子たちの栄養となり、朽ちていくのです（マコーリフ、2017）。

他にも、鳥に食べられやすい場所へ導かれてしまうカタツムリ、自らの網に寄生バチの子のための部屋を作ってハチの子を大切に育てた上に自らの体も差し出すクモなど。神経寄生生物学の分野は魅力的です。しかし、宿主の奇妙な行動が寄生者によるものであることを証明するのはかなり難しい難解な分野でもあります。

ちょっとでも寄生に興味を持った方は、野外の生きものたちの行動を観察してみてくださいね。すごい発見があるかもしれません！

引用・参考文献

- 鎌田直人（2006）ブナの葉食性昆虫ブナアオシャチホコの密度変動. 日本生態学会（56）:106-119.
- 南 智子・石井 実・天満和久（1999）大阪の里山と都市緑地におけるマイマイガの寄生性天敵相. 日本応用動物昆虫学会（43）第4号：169-174.
- キャスリン・マコーリフ（2017）心を操る寄生生物. 合同出版、東京. 323pp.

（澤田 智子）

行事レポート

渚の生きもの

日時：2017年5月27日（土）13:00～15:30

場所：近木川河口

参加者：58人

5月の潮の良くひく新月の大潮時に、近木川河口にて「渚の生きもの」観察会を行いました。講師に魚の専門家である大阪府水産技術センターの日下部敬之さん、貝の専門家である大古場 正さんに来て頂きました。例年行っているこの観察会は、大阪湾生き物一斉調査が始まってからは、同時にこの調査を兼ねたものとしていますが、早いものでこのスタイルになって10年目を迎えました。

前半は1時間ほど、河口の前浜にて自由に生きもの採集を行ってもらいました。浅場ではマメコブシガニがひょこひょこと歩く姿や、モクズガニの放卵後の力尽きた死体にアラムシロという巻貝が群がっている様子なども見られました。スコップで砂泥を掘るとアサリやクチバガイなどの二枚貝のほか、ゴカイ類や星口動物のスジホシムシモドキが見つかりました。水中をタモ網でふるとボラやウキゴリ属などの幼魚、そしてトラフグの幼魚（図1）までもが採集されました。このトラフグは右の胸鰭がないのを日下部講師が見つけ、「この個体は岬町の栽培漁業センターで育てられ、標識として鰭抜き（右胸鰭の切除）した後、二色の浜で放流されたもの」ということを説明されていました。

自由採集時に採集された生きもののリストを表1に記します。



図1. 採集された放流トラフグ

後半は地曳網を行いました。網を50mほど沖に出してから、参加者全員で網をひきました。今回は比較的豊漁で、2回の網入れで、ウミタナゴ類やメバル類の幼魚など12種の魚が計194匹採集できました（図2、表2）。ハゼの幼魚で種名のはっきりしないものがありましたが、和歌山県水産試験場の原田慈雄さんに後日見てもらったところ、ニクハゼという結果でした。



図2. アナアオサの山の中から魚を探す

観察会のまとめとして、前半の自由採集、後半の地曳網で採れた生きものを前に主な種について、講師の方々より解説頂きました（図3）。ウミニナは昨年、爆発的に増加しましたが、今年も健在のようでした。また、大阪府下では珍しいオチバガイ、ソ

トオリガイなどの貝や、オサガニ、コメツキガニ（図 4）などのカニも確認できました。魚ではガンテンイシヨウジ（図 5）がそのユーモラスな姿で子供たちの人気を集めていました。



図 3. 採集した生きものの解説



図 4. コメツキガニ



図 5. ガンテンイシヨウジ

表1.近木川河口で観察した海岸動物（地曳網除く） 2017年5月27日

グループ		和 名
刺胞動物門	鉢虫綱	オキクラゲ科 アカクラゲ
		ミズクラゲ科 ミズクラゲ
	花虫綱	タデジマイソギンチャク科 タデジマイソギンチャク
		ウメボシソギンチャク科 イシワケイソギンチャク
軟体動物門	多板綱	ウスヒザラガイ科 ウスヒザラガイ
		クサズリガイ科 ヒザラガイ
		ケハダヒザラガイ科 ケハダヒザラガイ
		ヨメガカサガイ科 マツバガイ
	腹足綱	ヨメガカサ ヨメガカサ
		ニシキウスガイ科 イシダタミ
		クロツケガイ
		コシダカガングラ
	サザエ科	スガイ
		アマオブネガイ科 イシマキガイ
		ウミナナ科 ウミナナ
		タマキビガイ科 タマキビ
	ムカデガイ科	アラレタマキビ
		オオヘビガイ
		タマガイ科 ツメタガイ
		アツキガイ科 イボニシ
	フトコロガイ科	ムギガイ
		ムシロガイ科 アラムシロ
		アメフラン科 アラクサアメフラン
		二枚貝綱 イガイ科 ムラサキイガイ
	イガイ科	ヨウロエンカワヒバリガイ
		ホトギスガイ
		イタボガキ科 マガキ
		ケガキ
	ナミマガシワガイ科	ナミマガシワ
		フナガタガイ科 ウネナシトマヤガイ
		チドリマスオ科 クチバガイ
		シオサザナミ科 オチバガイ
	マルスダレガイ科	アサリ
		オキナガイ科 ソトオリガイ
星口動物門	ホシムシ綱	スジホシムシ科 スジホシムシモドキ
環形動物門	多毛綱	ウロコムシ科 ウロコムシ科の一種
		ゴカイ科 アシナガゴカイ
		チロリ科 チロリ科の一種
		ミズヒキゴカイ科 ミズヒキゴカイ
		フサゴカイ科 フサゴカイ科の一種
		フトミズ科 イソミズ
節足動物門	貧毛綱	イワフジツボ科 イワフジツボ
		フジツボ科 タデジマフジツボ
	顎脚綱	シロスジフジツボ
		ミョウガイ科 カメノテ
	軟甲綱	ヒゲナガヨコエビ科 モズミヨコエビ
		フレカラ科 トゲフレカラ
		フナムシ科 フナムシ
		テナガエビ科 ユビナガスジエビ
		ホンヤドカリ科 ユビナガホンヤドカリ
		コブシガニ科 マメコブシガニ
		モクスガニ科 モクスガニ
		ケフサイソガニ
		タカノケフサイソガニ
		イソガニ
		ヒライソガニ
		スナガニ科 ハクセンシオマネキ
		コメツキガニ科 コメツキガニ
		オサガニ科 オサガニ
	硬骨魚綱	ヨウジウオ科 ガンテンイシヨウジ
		ボラ科 ボラ
		フサカサゴ科 メバル属
		スズキ科 スズキ
		タイ科 クロダイ
		ウミタナゴ科 ウミタナゴ属
		ハゼ科 ミズハゼ属
		ウキゴリ属
		チヂブ
		フグ科 クサフグ
	爬虫綱	トラフグ
		イシガメ科 クサガメ
	ヌマガメ科	ミシシippアカミガメ

表2. 近木川河口地曳網（網入れ2回）2017年5月27日

グループ	目	科	和名	個体数
魚類	スズキ目	フサカサゴ科	メバル属	43
			ムラソイ	2
		カシカ科	サラサカジカ	7
			アサヒアナハゼ	5
			アナハゼ	10
		ウミタナゴ科	ウミタナゴ属	93
		ニシキギンボ科	ギンボ	2
		イソギンボ科	イソギンボ	6
		ハゼ科	ヒメハゼ	1
			ニクハゼ	5
			ミミズハゼ属	2
	フグ目	フグ科	クサフグ	18
甲殻類	十脚目	テナガエビ科	スジエビモドキ	2
			ユビナガスジエビ	2
		イッカククモガニ科	イッカククモガニ	4
		ガザミ科	イシガニ	1
		モクズガニ科	モクズガニ	4
貝類	蟹足目	ウキツボ科	シマハマツボ	10以上
		フトコロガイ科	ムギガイ	10以上
頭足類	コウイカ目	コウイカ科	コウイカの卵	10
棘皮動物	クモヒトデ目	トゲクモヒトデ科	ナガトゲクモヒトデ	2
	ホンウニ目	サンショウウニ科	サンショウウニ	4

(山田 浩二)

二色の浜稚魚放流

日時：2017年6月10日(土)14:00～15:00

場所：二色の浜

参加者：41人（子供23人）

今年も開催しました「稚魚放流」。

大阪府栽培漁業センターより提供いただいたヒラメの稚魚約300尾をみんなの手で海に放流してあげる毎年恒例の人気行事です。

長さ10cmほどの可愛いサイズのヒラメ達は、水上からのぞき込む子供達に驚いたのか、水槽の底を覆い隠すように重なり合い、じっとしていました。



この行事は最初の15分ほど、みんなで浜辺のゴミ拾いをします。

初夏の日差しが照り付ける暑い日でしたが、参加者みなさん、子供たちも黙々とゴミを拾ってくれました。素敵です！



さあ！メインイベント「稚魚放流」。

栽培漁業センター長の米田氏からヒラメの生態について教えて頂き、少しヒラメ博士になった子供たちのヒラメに触りたいウズウズが最高潮になった時、稚魚放流スタート！

ヒラメを入れた水槽から波打ち際まで20～30mほどの距離があります。暑い日差しの中では「遠い」と感じる距離なのですが、歩いている途中も好奇心いっぱいヒラメを見続ける子供たちには関係ないようでした。



このイベントでは、毎年見られる光景『稚魚放流あるある』があります。

【稚魚放流あるある①】

波打ち際で子供が稚魚を放つ瞬間を写真に収めるべく、チャンスを狙うお父さん・お母さんの微笑ましい姿。



【稚魚放流あるある②】

自分の足にヒラメがあたるのが怖くて、波打ち際よりも大分手前で稚魚を流してしまう子供。



【稚魚放流あるある③】

毎年、稚魚放流の日に出会うお笑い芸人ガレッジセールのゴリさんを男前にしたようなお兄さん。今年も「お！今年もヒラメだな」とニヤニヤしながら水槽を覗いていました。

毎年、この初夏に開催する稚魚放流での「あるある」3つが見れたら、その年は良い夏を過ごせそうな気になります。

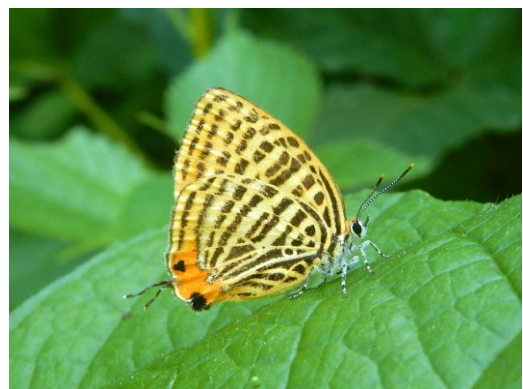
(澤田 智子)



泉州生きもの情報

ウラナミアカシジミ

6月15日、蕎原バス停から春日橋に向かって歩いていた時、日当たりの良い小さな広場で橙色の小さなチョウが5～6個体、飛翔しているのが目に入りました。広場に入ると、アジサイの葉上にも2個体止まっていた。その2個体は、翅裏の模様が特徴的なウラナミアカシジミでした(図1)。



ウラナミアカシジミ

(貝塚市蕎原 2017年6月15日 撮影)

撮影を済ませて採集し（1♂1♀）、もう1個体を着地時に確認すると、今度は、翅裏に模様のないアカシジミでした。結局、7～8 個体いた集団の中にウラナミアカシジミは最低3 個体いたことを確認しましたが、飛翔状態で2 種を見分けることは自分には出来ないので、正確な個体数は分かりませんでした。

ウラナミアカシジミは、自然遊学館が貝塚市内で記録していなかった種で、貝塚市産チョウ類 81 種目の確認となりました。本誌 71 号において、千石荘で2013 年9 月12 日に80 種目のホシミスジの撮影記録を報告してから、4 年弱経ったこととなります。ホシミスジに関しては、その後、2015 年6 月1 日に千石荘において、1 個体を採集しました。

ウラナミアカシジミ

Japonica saepestriata

チョウ目 シジミチョウ科

幼虫の餌植物は、クヌギやアベマキが

含まれる *Quercus* 属の葉

卵越冬、年1 化、成虫は初夏に発生

大阪府レッドリスト2014：準絶滅危惧

表1に、これまでに貝塚市で確認されたシジミチョウ科（21 種）のリストを示しました。

表1. 貝塚市のシジミチョウ科のリスト

（自然遊学館の記録上：2017年6月末まで）

亜科	種
アシナガシジミ亜科	ゴイシシジミ
ウラギンシジミ亜科	ウラギンシジミ
ミドリシジミ亜科	ムラサキシジミ
	ムラサキツバメ
	ウラゴマダラシジミ
	アカシジミ
	ウラナミアカシジミ
	ミズイロオナガシジミ
	ミドリシジミ
	オオミドリシジミ
	トラフシジミ
	コツバメ
ベニシジミ亜科	ベニシジミ
ヒメシジミ亜科	クロシジミ
	ウラナミシジミ
	ヤマトシジミ
	ルリシジミ
	ヤクシマルリシジミ
	サツマシジミ
	ツバメシジミ
	クロマダラソテツシジミ

（岩崎 拓）



館長コーナー

海の学びミュージアムサポートについて

2 年前に船の科学館からの助成金で新規事業として追加された、海の学びミュージアムサポート事業（以後は海の学びとします）は今年度も申請が認められ、支援が確定しました。

当館の年間事業の他に、バスを使って市外や府外で生きもの観察会や海の環境を研究する施設を見学することができることになりました。詳しくは当館ホームページ

ジヤ貝塚市広報『かいづか』で月ごとに順を追って紹介しています。

このサポート事業は平成 29 年度で 3 年目になる事業です。これまでにこのコーナーで過去の事業は紹介してきました。今年度も多くの事業を紹介できると思います。

そこで、今年度の取り組みについて計画の概要を紹介します。

メインテーマ

豊かな海、素敵な海にするために私たちにできること

この表現は 1 年目 2 年目のテーマに共通するものです。1 年目はウミガメ産卵地を、2 年目はスナメリをメインに取り上げ、海の学びを進めてきました。その年ごとに表現は違っていましたが、『豊かな海にするために私たちにできること』という部分は継続してきました。

そして、今年度はこのテーマに『食する』ことを付け加えました。そのきっかけは昨年度の海の学び報告会の講演会『大阪湾の魚を食べて、生きものの豊かな海に！』という日下部講師の講演でした。

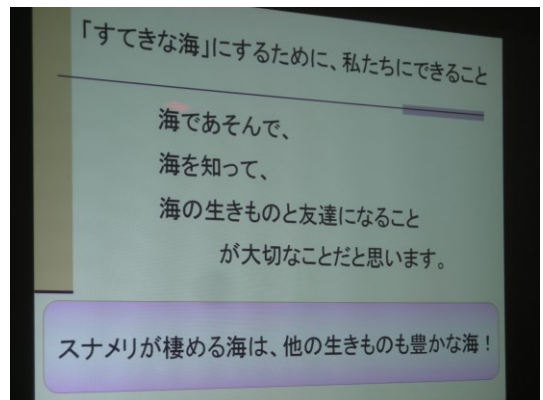


平成 28 年度海の学び報告会 講演の様子



講演会の初めの様子

この講演では大阪湾の生きものや大阪湾の海岸の実態、そして、そこから考えなければならないことなど、いくつものお話がありました。その講演の最後のまとめのところで『もっと魚を食べて大阪湾を好きになり、海の生きものを知り、そして、生きものの豊かな海にしよう』という提言があり講演会は終了しました。



講演会の最後の結びその 1
(講演会スライドより)



講演会の最後の結びその2
(講演会スライドより)

この提言が今回の事業の始まりになりました。

平成 29 年度の計画は大きく二つの柱とそれに沿って行う四つの行事にしました。

一つ目の柱は「豊かな海、素敵な海にするために1『知って学んで食して海を好きになる』」

二つ目の柱は「豊かな海、素敵な海にするために2『海につながる山と川の話—豊かな海にするために山に木を植える？—』」
としました。

さらに、一つ目の柱を構成する行事として以下の行事を計画しました。

行事① 生きもの調べ

- ・干潟の生きもの調べ
- ・二色の浜のアマモ場観察
- ・近木川のカニ釣り
- ・近木川のアユ調べ

行事② 魚釣り（海釣り）体験

- ・二色の浜で親子海釣り体験（初心者）
- ・岡田浦で海釣りとうなぎの植え付け体験

を設定し、豊かな海の定義をスナメリがす

める海＝いろいろな生きものがすめる海としました。

また、二つ目の柱を構成する事業としては以下の行事を計画しました。

行事③ 施設見学・観察会と学習会

- ・水産技術センター見学と住吉崎（南海せとうちジオガーデン）の磯観察
- ・京都大学白浜水族館見学と瀬戸臨海実験所周辺の磯観察
- ・海藻おしば体験とうみホテル観察会
- ・西鳥取漁港でノリの養殖場と牡蠣小屋見学

行事④ 川や海の観察・調査

- ・二色の浜クリーン作戦と稚魚放流
- ・近木川汽水ワンド観察・調査
- ・近木川のアユ調べ（下流域）
- ・水未来センター（下水処理場）疎水観察調査

ここでは、仮説として、「自然豊かで生きものが多く棲む山や川は海の栄養を豊富にする。その代表として、豊かな山＝和泉葛城山、豊かな海＝大阪湾、これをつなぐ豊かな川＝近木川がある」を立てました。

平成 29 年度海の学び行事予定としてすでに行われたのは、5 月 27 日の渚の生きもの調べ、さらに、5 月末からの特別展『海の学び報告会』展が実施されました。現在 7 月までの計画が終了し、今後計画に従って順次実施していく予定です。その結果は次回お知らせできると思います。



特別展「海の学び報告会」1



特別展「海の学び報告会」2

(高橋 寛幸)



いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの11

春になって、自然遊学館では、色々な生きものの赤ちゃんが生まれています。アカハライモリやミナミヌマエビなどの子どもが生まれました。アカハライモリの子どもは、20匹以上産まれて水替えやエサを与えるのが大変です。



アカハライモリの子ども

今回紹介する生きものは、最近、入ったばかりのニホンヤモリです。

ニホンヤモリは、本州、四国、九州および対馬などに分布します。民家やマンションなどで見かけることが多く、ガラス窓や天井に張りついて移動しています。尾の付けねに大きな鱗が2〜4対並んでいます。遊学館のニホンヤモリは、全長5.5cmですが、最大10cm〜14cmになります。野生のニホンヤモリは、明かりに寄って来る昆虫を捕まえて、食べています。遊学館では、コオロギやクモなどを与えています。



遊学館で飼育しているニホンヤモリ

(鈴子 勝也)

調査速報

貝塚市二色の浜と

近木川周辺の鳥調査 5

二色の浜と近木川周辺の鳥調査を始めて、1年間が過ぎました。日常的に見る野鳥、季節とともにやってくる野鳥、旅立っていく野鳥、続けていて調査が楽しくなっています。

今回調査した4月～6月までの野鳥調査の結果を表にしました。

二色の浜公園周辺において2017年4月～6月に観察された鳥類					
目	科	種	4月	5月	6月
			26日 鈴子	17日 鈴子	28日 鈴子
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○		
		カルガモ	○	○	○
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○
		ドバト	○	○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○	
		ダイサギ	○	○	○
		コサギ	○	○	○
チドリ目	チドリ科	ケリ	○	○	
		コチドリ	○	○	
		シロチドリ	○	○	
		メダイチドリ	○	○	
	シギ科	チュウシャクシギ	○		
		キアシシギ		○	
		トウネン		○	
	カモメ科	ハマシギ	○		
		ウミネコ			○
	スズメ目	カラス科	コアシサシ		○
ハシボソガラス		○	○	○	
		ハシブトガラス	○	○	○
ヒバリ科		ヒバリ	○	○	○
ツバメ科		ツバメ		○	○
ヒヨドリ科		ヒヨドリ	○	○	○
ムクドリ科		ムクドリ	○	○	○
ヒタキ科		ツグミ	○		
		イソヒヨドリ		○	
スズメ科	スズメ	○	○	○	
セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	
アトリ科	カワラヒワ	○	○	○	
種数			23	24	17

近木川河口周辺において2017年4月～6月に観察された鳥類					
			4月	5月	6月
目	科	種	19日	3日	14日
			鈴子	鈴子	鈴子
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○		
		カルガモ	○	○	○
		コガモ	○	○	
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○
		ドバト	○	○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○	○
		ダイサギ	○	○	○
		コサギ	○	○	○
ツル目	クイナ科	オオバン		○	
チドリ目	チドリ科	ケリ	○	○	○
		コチドリ	○	○	○
	シギ科	シロチドリ		○	
		チュウシャクシギ		○	
		キアシシギ		○	
		ソリハシシギ		○	
		イソシギ		○	
		カモメ科	ウミネコ	○	
		コアジサシ		○	○
	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	○	○
ハシブトガラス			○	○	
ヒバリ科		ヒバリ			○
		ツバメ科	ツバメ	○	○
ヒヨドリ科		ヒヨドリ	○	○	○
		ムクドリ科	ムクドリ	○	○
スズメ科		スズメ	○	○	○
		セキレイ科	ハクセキレイ	○	
		セグロセキレイ		○	○
アトリ科		カワラヒワ	○	○	○
	ホオジロ科	カシラダカ	○		
種数			21	25	19



近木川河口 2017年5月3日 ソリハシシギ



二色の浜公園 2017年6月28日 カルガモ親子

4～6月にかけて、スズメとムクドリの繁殖期に入り、6月の終わりになるとムクドリが親子で行動しているのがよく見られます。

(鈴子 勝也)

寄贈標本

<菌類>

- ◆外越晴さんより
コフキササルノコシカケ 1点
貝塚市水間 2017年6月18日採集

<哺乳類>

- ◆渡辺怜真さんより
アブラコウモリ 死体1点
貝塚市畠中 2017年5月22日採集
- ◆廣野真さんより
コウベモグラ 死体1点
貝塚市蕎原 2017年6月15日採集

<鳥類>

- ◆管尾誠二さんより

ツグミ 死体1点

貝塚市海岸寺山 2017年4月8日採集

- ◆溝端日菜子さんより

ツグミ 死体1点

貝塚市小瀬 2017年4月16日採集

<魚類>

- ◆福島秀人さんより
カサゴ 生体2点
泉佐野市りんくう往来北
2017年5月21日採集
コブダイ幼魚 生体1点
メバル 生体1点
ホシササノハベラ 生体1点
カサゴ 生体3点
泉佐野市りんくう往来北
2017年6月17日採集
- ◆常道武士さんより
モツゴ幼魚 生体1点
貝塚市橋本 2017年6月6日採集

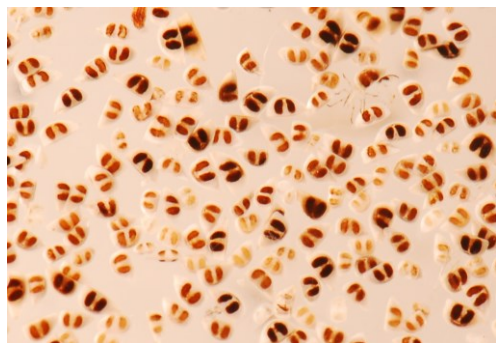
<軟体動物>

- ◆鈴子佐幸さんより
キヌマトイガイ 3点
岬町深日港 2017年4月29日採集
- ◆常道武士さんより
ヒメタニシ 生体1点
貝塚市橋本 2017年6月6日採集

<甲殻類>

- ◆岡村親一郎さんより
トゲシャコ 2点
シャコ 1点
関空北西沖（水深約20m）
2014年10月28日 松久正夫採集

- ◆鈴子佐幸さんより
ヒメベンケイガニ 5点
岬町深日港 2017年4月29日採集
- ◆戎下有規子さんより
インダタミヤドカリ 生体5点
アカニシ 生体1点
多奈川小島沖 2017年6月1日採集
- ◆常道武士さんより
アメリカザリガニ 生体2点
貝塚市橋本 2017年6月6日採集
アメリカザリガニ 生体2点
貝塚市橋本 2017年6月9日採集
- ◆辰巳碧海・阿部百花さんより
オサガニ 生体1点
近木川河口 2017年6月10日採集
- ◆貝塚市スポーツ振興課より
ミジンコ類の耐久卵 多数
(大阪市立自然史博物館の方から、ミジンコ
類の卵であることを教えて頂きました)
貝塚市畠中(第1プール)
2017年6月22日採集



<昆虫>

- ◆佐々木仁さんより
トホシオサゾウムシ 成体1点
貝塚市千石荘 2017年5月12日採集
- ◆喜多理恵さんより

- ギンスジアオシヤク 幼虫1点
貝塚市千石荘 2017年5月12日採集
- ◆常道武士さんより
クビキリギス紅色型 成虫1点
貝塚市澤 2017年5月19日採集
ゴマダラチョウ 成虫1点
セグロアシナガバチ 古巣1点
アシナガバチ科の一種 初期巣1点
貝塚市澤 2017年5月24日採集
キオビツチバチ 成虫1点
大阪市天王寺区 2017年5月27日採集
シオカラトンボ 幼虫1点
ハグロトンボ 幼虫1点
貝塚市橋本 2017年6月6日採集
- ◆食野俊男さんより
オトシブミ 揺籃4点
和泉葛城山 2017年5月23日採集
- ◆福島秀人さんより
コガタスズメバチ 巣1点
貝塚市二色 2017年5月23日採集
ゴマダラカミキリ 成虫1点
貝塚市二色 2017年6月8日採集
ウンモンズズメ 幼虫1点
貝塚市二色 2017年6月26日採集
- ◆山田壮真さんより
コカスリウスバカゲロウ 幼虫1点
近木川河口左岸 2017年5月27日採集
- ◆西出康介さんより
カツオゾウムシ 成虫1点
貝塚市脇浜 2017年5月29日採集

<クモ>

- ◆中原光規さんより
ハラクロコモリグモ 成体1点
貝塚市二色 2017年5月5日採集

＜寄贈写真＞

◆覚野良子さんより

ヨゴレネコノメ 8枚

(長谷川匡弘さん同定)

シロバナショウジョウバカマ 2枚

貝塚市蕎原 2017年3月26日撮影

ヨゴレネコノメ 38枚

(生息地の景観写真を含む)

シロバナショウジョウバカマ 1枚

ジロボウエンゴサク 1枚

アブラチャン 2枚

ほか2枚

貝塚市蕎原 2017年4月1日撮影

ヒトリシズカ 4枚

和泉葛城山 2017年4月29日



ヒトリシズカ

(和泉葛城山 2017年4月29日 覚野良子さん撮影)

ホウチャクソウ 2枚

和泉葛城山 2017年5月3日撮影

ヒトリシズカ 2枚

和泉葛城山 2017年5月4日撮影

タツナミソウ 12枚

貝塚市千石荘 2017年5月13日撮影

タツナミソウ 4枚

貝塚市馬場 2017年5月13日撮影

タツナミソウ 4枚

熊取町小谷 2017年5月13日撮影

ミヤマハハソ 1枚

和泉葛城山 2017年5月21日撮影

クワガタソウ 11枚

和泉葛城山 2017年6月10日撮影



クワガタソウ

(和泉葛城山 2017年6月10日 覚野良子さん撮影)

コシアカツバメの巣 1枚

馬場 2017年6月17日撮影

クワガタソウ 1枚

ホナガタツナミ 3枚

和泉葛城山 2017年6月18日撮影

その他、15枚

◆秋武仁志さんより

ヨツボシトンボ 成虫1点

貝塚市馬場 2017年5月5日撮影

オナガサナエ 成虫1点

貝塚市馬場 2017年5月28日撮影

◆佐々木仁さんより

ツバメシジミ 成虫1点

貝塚市千石荘 2017年5月12日撮影

◆藤村雅志さんより

トラフトンボ 成虫1点

貝塚市馬場 2017年5月15日撮影



トラフトンボ♂

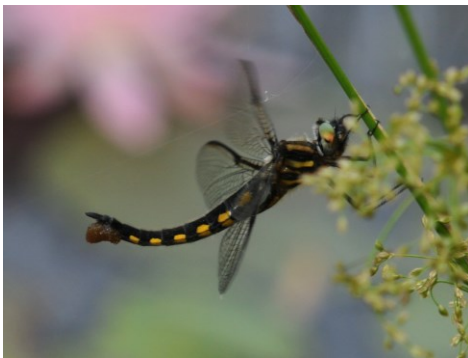
(貝塚市馬場 2017 年 5 月 15 日 藤村雅志氏撮影)
(他、5 月 2 日に 1 羽、5 月 8 日に 1 羽 1 羽を確認)

(編集コメント) トラフトンボは、自然遊学館創館 10 周年に作成した貝塚市のトンボリストの中で、井上清さんと松田勲さんの共著によって 1962 年の木村輝夫さんによる採集例が引用され、貝塚市のトンボ(75 種)の中に入れてきました。今回、自然遊学館が把握している情報では、55 年ぶりの確認となりました。

◆佐々木敏夫さんより

トラフトンボ 成虫 1 点

貝塚市馬場 2017 年 5 月 17 日撮影



トラフトンボ♀

(貝塚市馬場 2017 年 5 月 17 日
佐々木敏夫氏撮影)
(藤村雅志氏から生息情報を得て撮影したもの)

◆森本静子さんより

ヘリグロミズカメムシ 成虫 3 点

貝塚市二色 2017 年 6 月 10 日撮影

◆丸山幸代さんより

シジュウカラ 1 点

貝塚市澤 2017 年 6 月 14 日撮影

◆食野俊男さんより

ケリ 1 点

近木川河口 2017 年 6 月 19 日撮影

＜目撃情報＞

◆丸山幸代さんより

ナルトビエイ 打ち上げ死体 1 点

近木川河口 2017 年 5 月 8 日確認



スタッフ日誌

4 月 16 日、川村甚吉前館長が遺された切り絵作品を展示する「第 12 回生きもの切り絵展」を開催しました(5 月 7 日まで)。ボードに掛ける展示以外に、展示室中央の机上にも作品を並べ、昨年の春よりも多くの作品を見て頂けるようにしました。川村前館長が貝塚市広報に連載していた生きもの切り絵と解説文なども展示しました。解説文は一般的な説明に加えて、独自の経験に基づく説明が添えられていて、改めて大変な作業だったのだと感じ入りました。(スタッフ一同)

5 月 11 日、和泉葛城山でニリンソウの写真撮っていた時のことです。しゃがんだ左

ひざ近くで「がさっ」という音がして、大きなへびか！と思って見ると、アナグマと見つめ合うことになりました。とっさのことで、カメラをそのままアナグマに向ければいいことに気付かず、のろのろと去っていく後姿しか撮れなかったのが残念でした。(岩)

5月14日、泉佐野市にお住まいで阪神貝類談話会の会長をしておられる岡村親一郎さんより、長年蒐集^{しゅうしゅう}してこられ、ご自宅に展示されていた貝標本を多数寄贈して頂きました。オウムガイやヒレジャコなどの日本国内外の貝殻で、大阪湾の海岸では採れない珍しいものが多いです。2階への階段に設置した棚に飾りました。(山・岩)

5月18日、「釣りはじめます！」というBS放送のテレビ番組の取材が飛び込みで入りました。釣りを初めて行う人が自分の力だけで魚を釣ることができるかというドキュメントで、貝塚市出身の弥園奈津美さん(25歳)が挑戦しました。子供の頃、訪れていた当館で、まず魚のことを知ってからということになってくれました。その後、泉佐野の海で無事にサバが釣れたことを放映を見て知りました。(山)

5月24日、二色小学校、第五中学校の生徒有志76人と一緒に市営第5プールのヤゴ救出作戦を行いました。途中から雨になりましたが、ギンヤンマ、シオカラトンボ、アカトンボの仲間、アオモンイトトンボ、ウスバキトンボのヤゴ、約580匹を救出しました。ギンヤンマは約200匹で、産卵を

促すメダケの仕掛けが有効であることが分かりました。(岩・山)

5月26日、地藏堂にある市営第4プールでヤゴ救出作戦を行いました。幼児用プールではウスバキトンボ約1,200匹、一般用の25mプールでは、ギンヤンマ幼虫12匹、アオモンイトトンボ幼虫92匹、シオカラトンボ51匹、アカトンボの仲間35匹が採集され、メダケの仕掛けがギンヤンマのほか、アオモンイトトンボにも有効であることが分かりました。(高・岩)

6月21-23日、「ヒアリ騒動」は収束するかなと思えば新たな確認があったりして、この間に同定依頼を受けた市内のサンプルは、トビイロシワアリ、クサアリモドキ、ハリブトシリアゲアリ、ヒラフシアリの4種でした。いずれも元々日本にいるアリです。以下、経緯をごく簡単に書いておきます。有毒の外来アリであるヒアリが5月26日に尼崎市で確認され、これが国内初記録でした。6月16日に神戸市でも確認され(発表は6/18)、その後、6月27日に名古屋市、6月30日に大阪市でも確認されました。(岩)

6月25日、「海につながる山の話」と題した講演会を行いました。講師はNPO法人大阪自然史センターの天満和久さんと、近くの漁師町で育ったことから、漁師の立場や内情に精通し、また昆虫学者として森を守る立場でもある方です。最初にご自身が関わられた大阪府レッドリストや和泉葛城山のブナ林の保全の話から始まり、森林

の働きや魚庭の森づくりなど、漁師がいかに森林を大切にしてきたのかという話をしていただきました。漁師にとっては、海に栄養をもたらす森を守る長期的な利益と、間伐の際に出た木材を冬期につかう薪として確保できる直近の利益があったのですが、その伝統は失われつつあるそうです。天満講師が前日に参加されたヒアリの講習会で配布された実物のヒアリ標本も見せていただき、興味が尽きない時間があっという間に過ぎました。(スタッフ一同)



お知らせ

夏期特別展

「汽水ワンドの生きもの」開催中！



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2017年7月17日～9月3日

内容：近木川河口の汽水域につくられた干潟再生地（通称：汽水ワンド）について、大阪府岸和田土木事務所による完成までの経緯や、完成後の2012年度から2016年度にかけて確認された生きものをパネルや標本で紹介しています。

◆ 開館時間変更

平成29年4月より、開館時間に変更されています。

開館時間：9時から17時迄

（ただし4月～10月の土・日曜日は、
19時半迄）

休館日は以下の通りで変更ありません。

休館日：火曜（祝日の場合は翌日）、

年末年始の12月29日から1月3日

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、
下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2017 夏号 (No. 84)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2017.8.14

この小冊子は庁内印刷で作成しています。